

4-1 アンケート調査の実施

バリアフリー基本構想を策定するにあたり、実際に駅を利用する人が感じている駅と駅周辺のバリアフリー等に対する意見を把握するため、JR春日井駅での鉄道利用者（乗降客）への聞き取りによる調査、また関係団体への郵送による調査を実施した。いずれも調査票、調査項目は同じである。

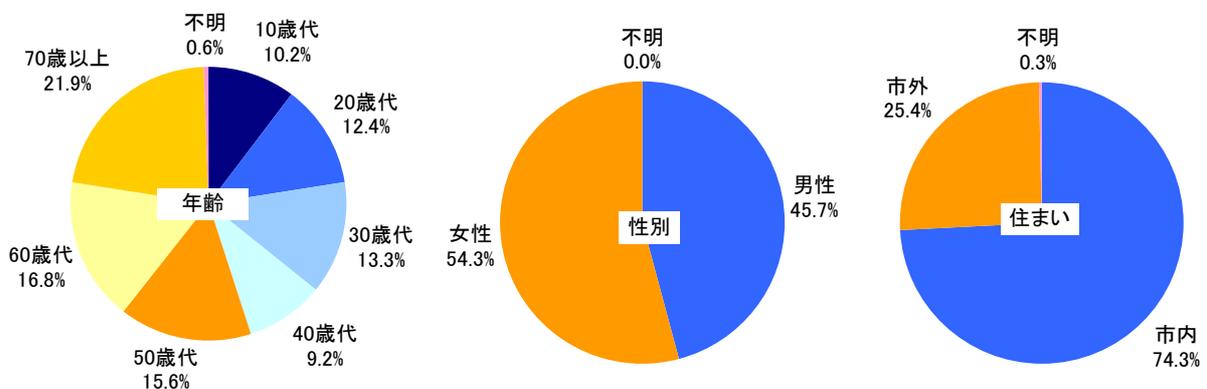
① 駅利用者への調査

調査日時	平成19年10月4日（木） 9：30～17：00
調査場所	JR春日井駅北口・南口駅前広場内
対 象	駅利用者（主に乗降客）
調査人員	13名（春日井市5名、コンサルタント8名）
調査方法	調査員が調査票を用いて、直接聞き取りを行った。なお、聞き取り対象者の抽出は、基本的には、性別や障がいの有無に関わらずランダムとした。
回収数	255件 （北口206件（80.8%）、南口49件（19.2%））

② 関係団体への調査

調査日時	平成19年10月
対 象	老人クラブ連合会、婦人会協議会、ボランティア連絡協議会
調査方法	郵送による配布、回収
回 収 数	60件

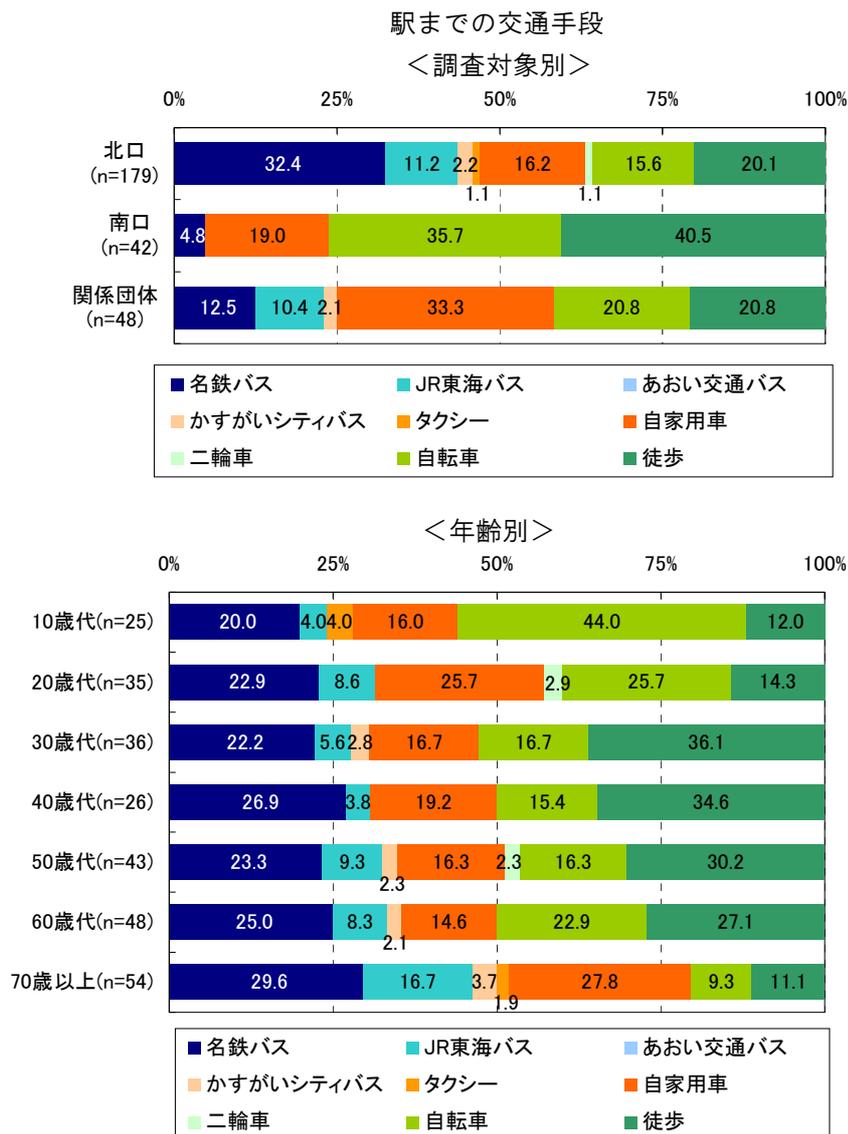
<回答者属性>



(1) JR春日井駅に来るときに利用する主な交通手段

駅までの主な交通手段は、駅北口では、名鉄バスなどバス利用者が45.8%と半数近くを占めている。駅南口では、徒歩及び自転車の利用者が多く、合わせて76.2%となっている。自家用車利用者も19.0%で、この3つが主な交通手段である。

年齢別にみると、30歳代以上では、高齢になるほど「徒歩」が少なくなっている。特に、70歳以上ではバスが50.0%、「自家用車」が27.8%と合わせて77.8%を占め、この2つが主な交通手段となっている。



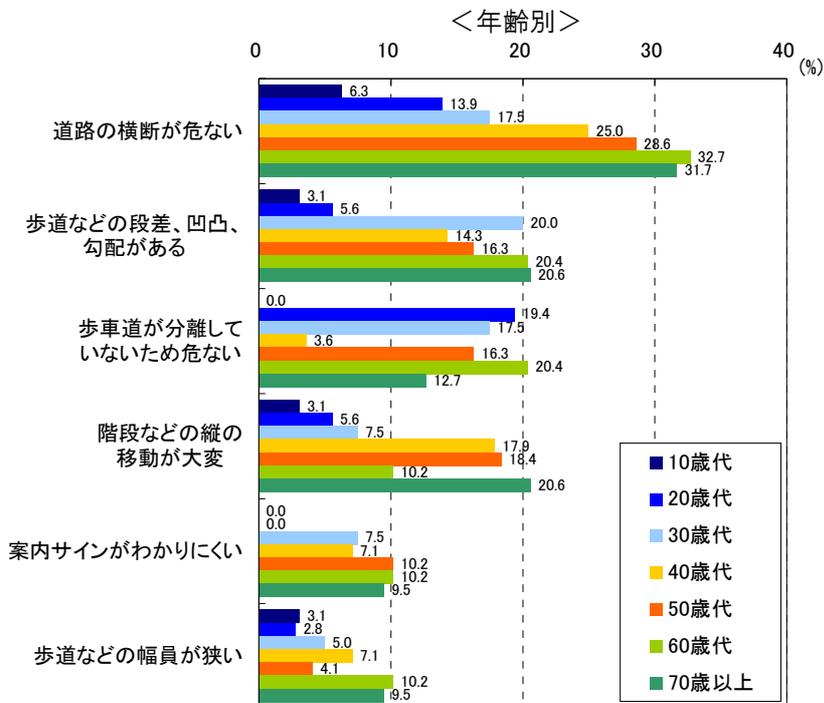
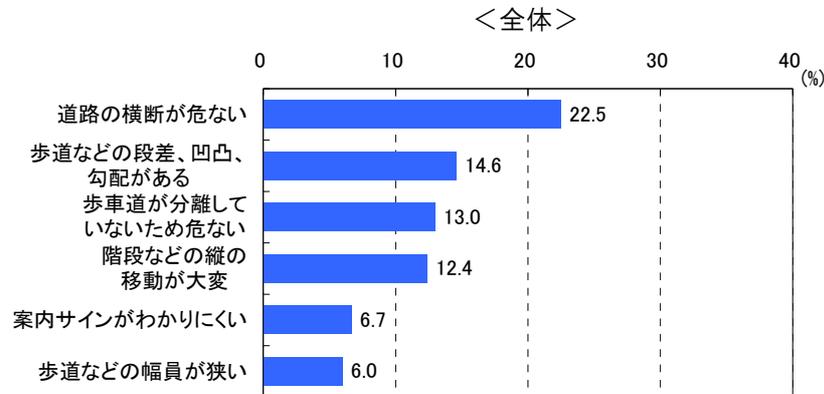
(2) JR春日井駅周辺で不便や支障を感じた点 (※具体的な箇所は次頁図参照)

駅に来た際に不便や支障を感じる点としては、「道路の横断が危ない」が全体の22.5%と最も多く、次いで「歩道などの段差、凹凸、勾配がある」が14.6%となっている。

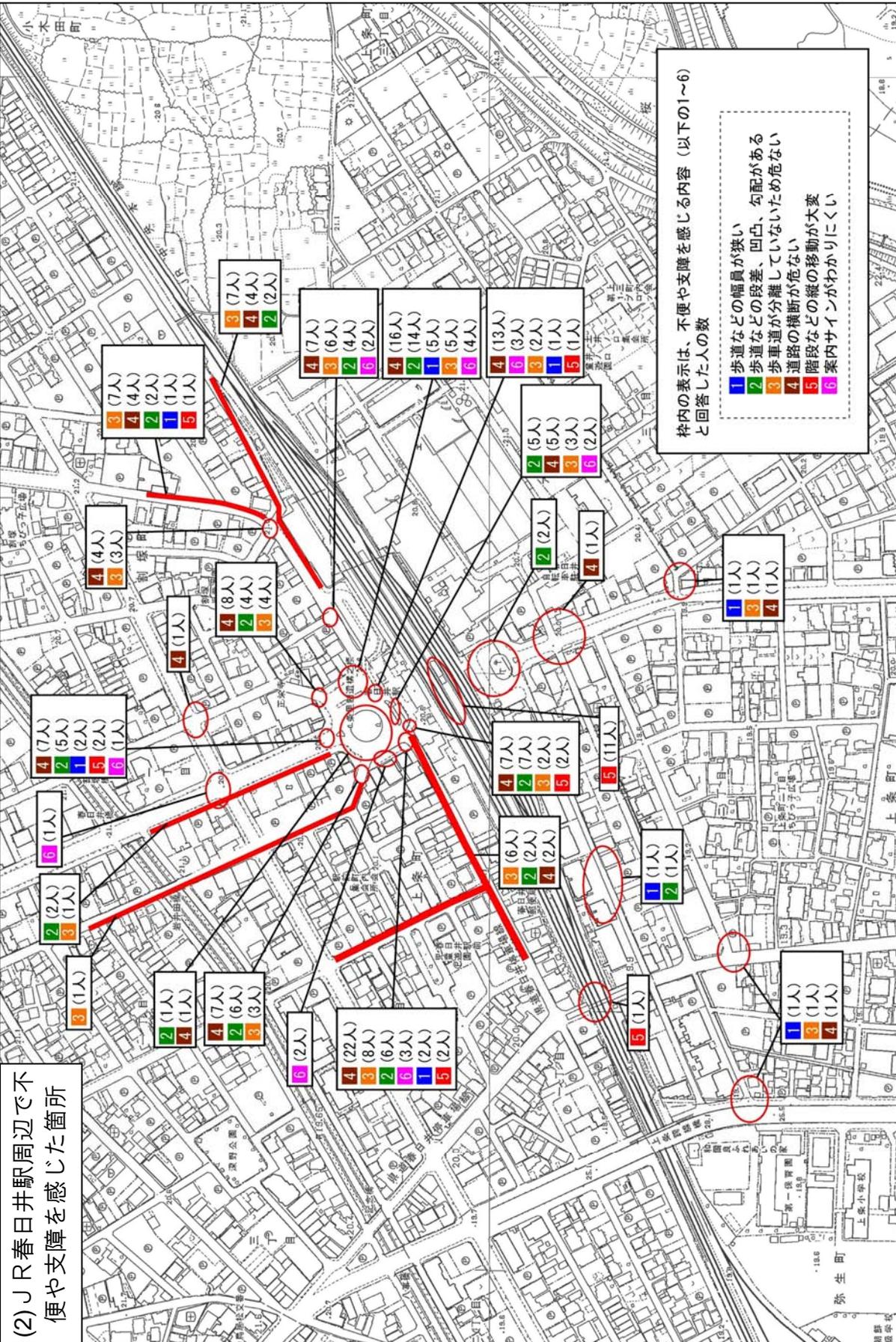
年齢別にみると、どの項目でも、60歳代もしくは70歳代の高齢の人が、不便や支障を感じている割合が高くなっている。特に「道路の横断が危ない」「歩道などの段差、凹凸、勾配がある」ではその傾向が顕著である。

また、不便や支障を感じる箇所としては、駅北側への意見が集中している。北口駅前広場内で周辺道路と交差する箇所に対して、「道路の横断が危ない」という意見が多く見られる。駅北口から東西に伸びる道路(県道春日井停車場線、市道1281号線)については、「歩車道が分離していないため危ない」という回答も見られる。

駅周辺での不便や支障を感じた点 (複数回答)



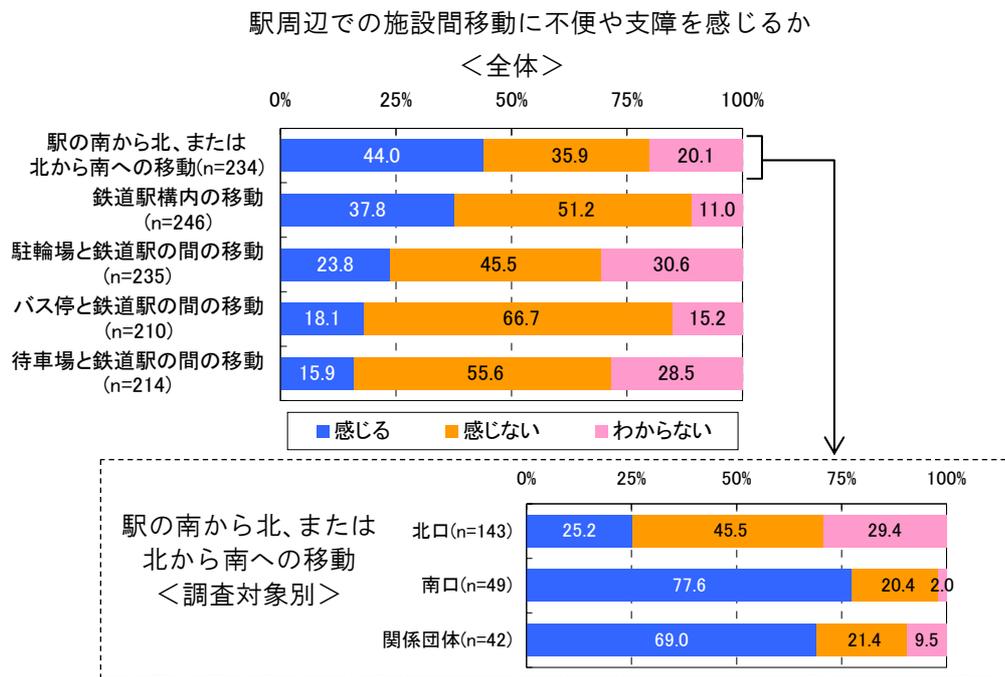
(2) JR春日井駅周辺で不便や支障を感じた箇所



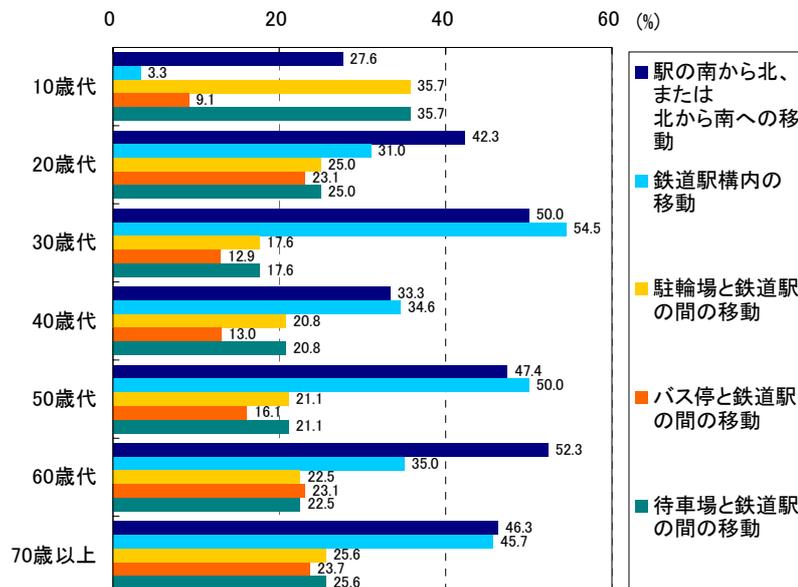
(3) JR春日井駅周辺での施設間移動に不便や支障を感じるか

駅周辺の施設間移動の際の不便や支障については、「駅の南から北、または北から南への移動」について、不便や支障を感じるという回答が最も多く、44.0%になっている。次いで、「鉄道駅構内の移動」、「駐輪場と鉄道駅間の移動」となっている。特に、「駅の南から北、または北から南への移動」については、調査対象別の内訳をみると、南口で不便や支障を「感じる」人の割合が非常に高く、北口の約3倍となっている。

また、年齢別に各項目について不便や支障を「感じる」と回答した割合をみると、30歳代以上の全世代で「駅の南から北、または北から南への移動」、「鉄道駅構内の移動」に対して不便や支障を感じている割合がほかの項目より著しく高くなっている。



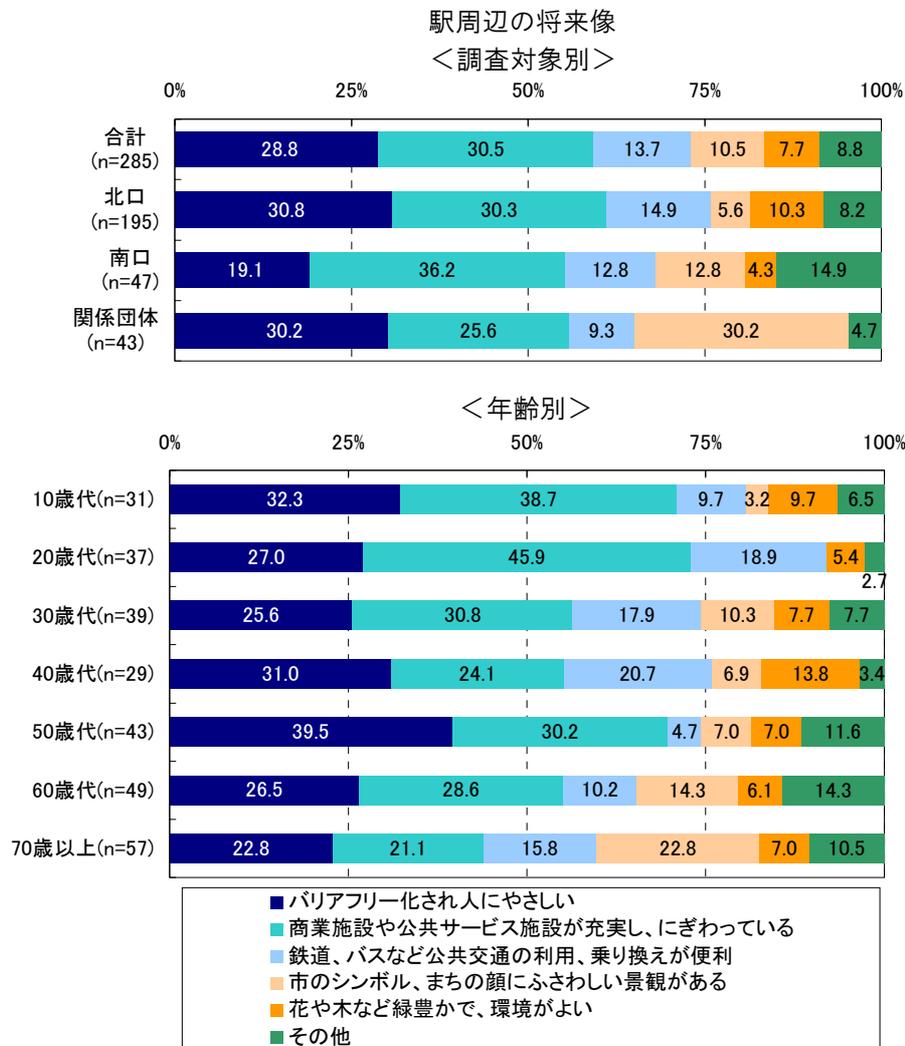
不便や支障を「感じる」と回答した割合
 <項目別、年齢別>



(4) JR春日井駅周辺の将来像

駅周辺地域の将来像についてみると、全体では、「商業施設や公共サービス施設が充実し、にぎわっている」への回答が 30.5%と最も多く、次いで「バリアフリー化され人にやさしい」が 28.8%となり、この2つが主な将来像となっている。北口利用者もこの2つが多い。しかし、南口利用者では「商業施設や公共サービス施設・・・」への回答の割合が 36.2%ととりわけ高くなっている。

年齢別にみても、70歳以上を除いては、「バリアフリー化・・・」と「商業施設や公共サービス施設・・・」の2つが主な回答となっている。30歳代以下の若年層では「商業施設や公共サービス施設・・・」を求める回答が最も多く、40～50歳代では「バリアフリー化・・・」が最も多い。70歳代になると、意見が分散傾向にあるものの、最も多いものに、「バリアフリー化・・・」と「花や木など緑豊かで、環境がよい」が選ばれている。



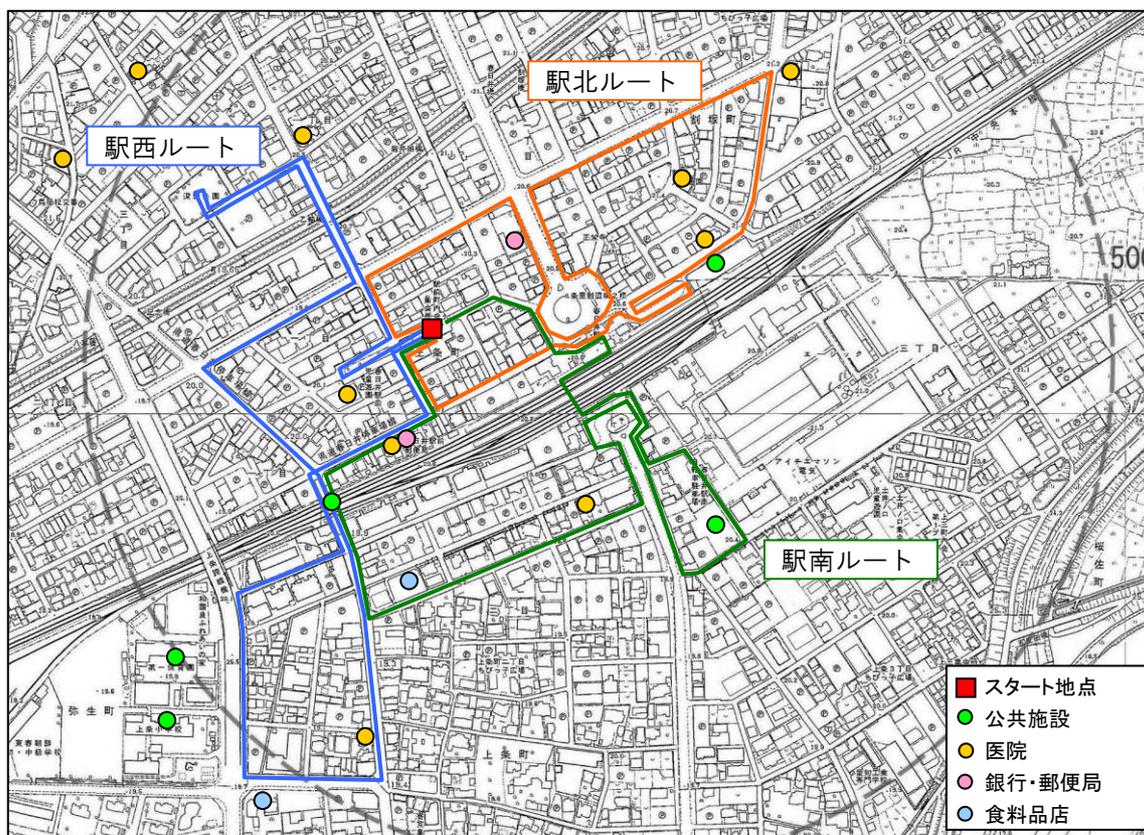
4-2 現地調査の実施

(1) JR春日井駅周辺

駅周辺の居住者、商業者、関係団体の参加を得て、駅周辺地域のバリアフリー化の現況を把握するとともに、課題を抽出するために、現地調査を実施した。

調査日時	平成19年9月29日(土) 13:00~16:30
調査場所	JR春日井駅周辺
調査人員	16名(周辺住民10名、周辺商業者1名、関係団体5名) 春日井市5名、コンサルタント3名
調査内容	3グループに分かれ、周辺の図面を持参し、現地を歩くことにより、バリアの実態(問題箇所や改善点)を把握した。結果は、グループごとに図面に取りまとめ、バリアマップを作成した。また、グループごとに作成したマップを発表し、参加者全員で検討を加えた。

<現地調査ルート>

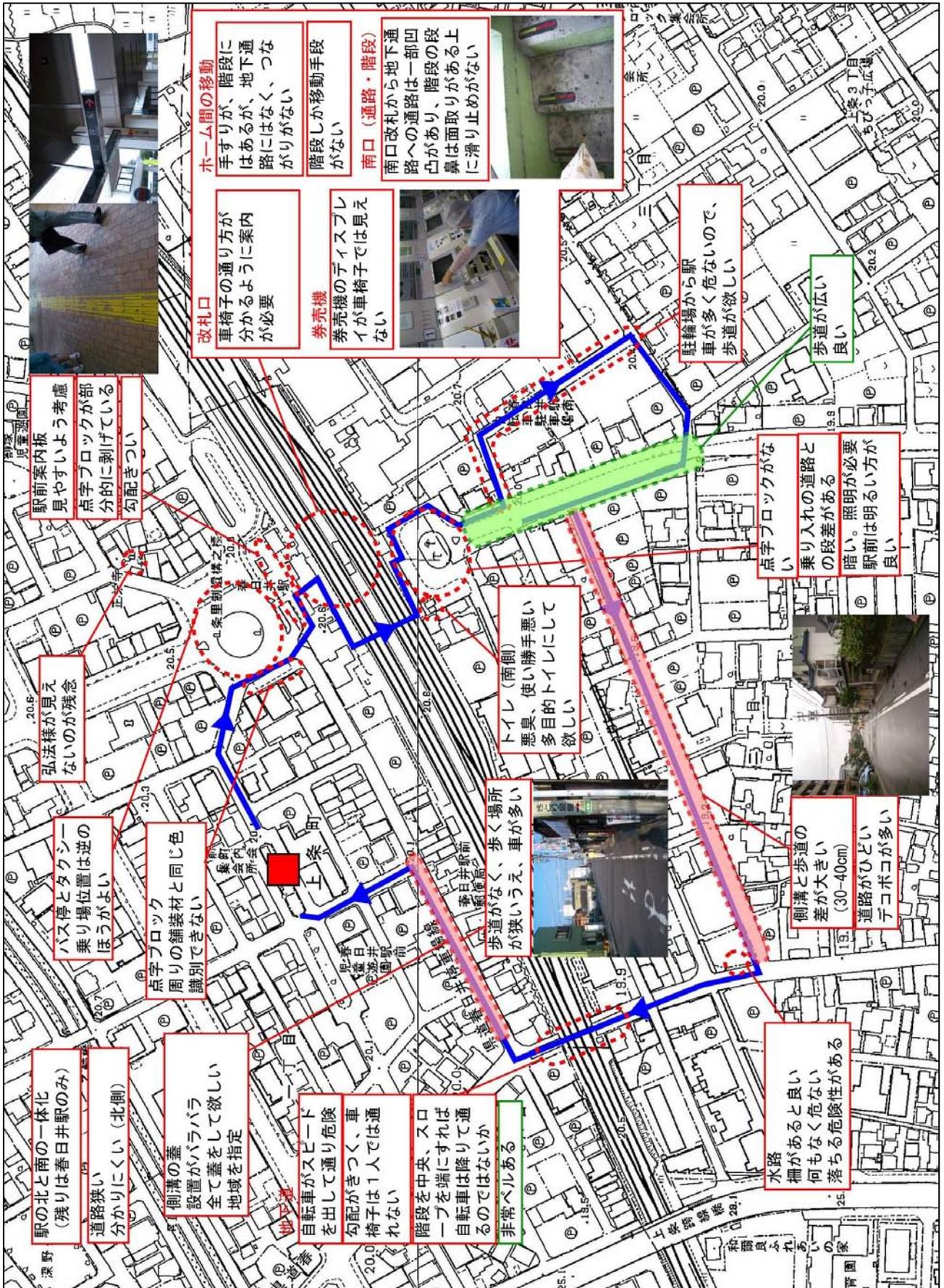


○駅西ルートの変りアマップ

(※赤枠：問題点、緑枠：良い点)

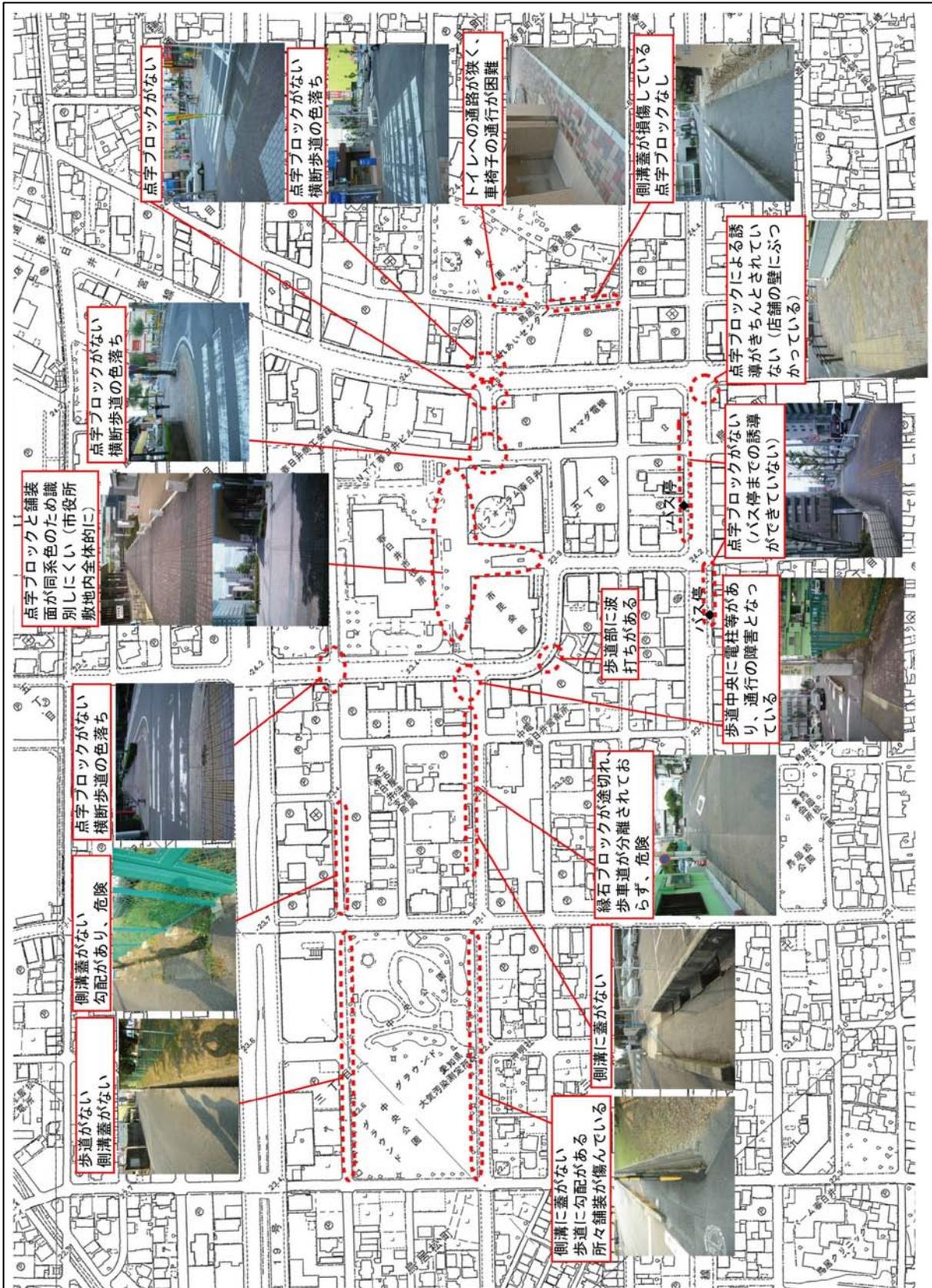


○駅南ルートへのバリアマップ



(2) 市役所周辺

事務局より補足調査を行った。作成したバリアマップを以下に示す。



4-3 バリアフリー化に向けた問題点の整理

アンケート調査や現地調査の結果をもとに、JR春日井駅周辺と市役所周辺における現状の主な問題点を整理する。

(1) JR春日井駅周辺

場 所	主な問題点	
駅	・ 構内上下移動が階段のみである	
	・ 南口側の階段は滑り止めがない	
	・ 地下通路に手すりがない	
	・ 券売機の画面が車イス利用者から見にくい（反射のため）	
	・ 車椅子用の改札への案内がない	
北口駅前広場	・ 周辺道路の横断が危険である	
	・ 駅舎脇の勾配がきつい	
	・ 視覚障がい者誘導ブロックが識別しにくい箇所がある（周囲の舗装面と同色、欠損・磨耗している）	
	・ 案内サインがわかりにくい（系統的でない）	
南口駅前広場	・ 乗り入れ部に段差が生じている	
	・ トイレが多目的ではない、かつ汚れている	
周辺道路	構 造	・ 歩道がない道路が多い
		・ 歩道、車道、自転車道が分離されておらず、危険な箇所がある
		・ 歩道に段差や凹凸がある（舗装面の欠損、継ぎはぎの舗装などによる）
		・ 側溝と歩道・車道との段差が多い箇所がある
		・ 交差点部でのすり付け勾配が急な箇所がある
		・ 側溝蓋の設置が不連続である（部分的に未設置・欠損、場所によって種類が異なる）
	誘導ブロック	・ 視覚障がい者誘導ブロックがない、または識別しにくい箇所がある（色褪せ、磨耗・欠損している）
	案 内 表 示	・ 交差点で音響装置のない信号機がある
		・ 横断歩道や外側線などの路面表示がはげている箇所が多い
・ 歩道や路側帯に障害物が多く、歩行の障害となる（路上駐輪、はみ出し看板、電柱、標識など）		
地 下 道	・ 狭い上に、自転車と歩行者が錯綜している	
	・ 勾配がきつい	
	・ 階段部に手すりがない	
	・ 駅近くでは南北地域が分断されている（地下道による迂回が必要）	

(2) 市役所周辺

場 所	主な問題点	
市役所敷地内	<ul style="list-style-type: none"> ・視覚障がい者誘導ブロックが周囲の舗装面と同系色のため識別しにくい ・案内サインが分かりにくい 	
周辺道路	構 造	・歩道がない道路がある
		・歩道、車道、自転車道が分離されておらず、危険な箇所がある
		・歩道に段差や凹凸のある箇所がある（舗装面の欠損、継ぎはぎの舗装などによる）
		・側溝蓋の設置が不連続である（部分的に未設置・欠損、場所によって種類が異なる）
		・横断歩道や外側線などの路面表示がはげている箇所が多い
		・交差点部でのすり付け勾配が急な箇所がある。
	誘導ブロック	<ul style="list-style-type: none"> ・バス停まで視覚障がい者誘導ブロックが連続的に設置されていない ・視覚障がい者誘導ブロックが識別しにくい箇所がある（色褪せ、欠損・磨耗）
案 内 表 示	・横断歩道にエスコートゾーンが設置されていない	
	・交差点で音響装置のない信号機がある	
	・歩道中央に電柱などが設置され、障害となっている箇所がある	
公 園	・トイレまでの通路幅員が十分でない箇所がある	